

第3回米沢市環境審議会 会議録

1 日時

令和3年7月13日（火） 午後3時～午後4時30分

2 場所

米沢市役所 第3委員会室

3 出席者等（敬称略）

（1）出席した委員

南後 淳、柴田 正孝、近野 敏子、澤田 美恵子、滝澤 誠、深瀬 順子
鈴木 雄一、塩越 憲夫、山口 正廣、本間 精

（2）欠席した委員

白壁 洋子、尾形 一子

（3）事務局職員

安部道夫市民環境部長、石黒龍実環境生活課長、佐藤博人課長補佐、
栗野真一朗環境主査、吉池賢太郎主任、後藤大樹主任

4 会議の概要

（1）開会

（2）会長挨拶

開催に当たり、柴田正孝米沢市環境審議会会長から挨拶がなされた。

（3）部長挨拶

安部道夫市民環境部長から挨拶があった。

（4）協議事項

①環境行政を取り巻く状況の変化について

事務局から資料2～5の説明があった。

②米沢市第3期環境基本計画素案について

始めに、事務局から標記の素案について資料1と5により一括説明があった。
事務局の説明後、各委員から発言がなされた。

委員

資料6の12について、前回私が発言した内容ですが、見直していただき感謝申し上げます。

第3章から第4章に移行するに当たり、目標設定の意図が分かりづらいです。何を期待して目標を設定しているのか、この目標を達成することにより何がどう変わるのかの説明が必要だと思います。例えば、ホームページのアクセス件数が増えたことによって、どんな影響が出るのか。

第2章の望ましい環境像において、雪に関する記述がもう少しあった方がよいと思います。

第4章の中間目標にある市の循環バスの利用客の指標については、マイカー使用の抑制を狙った指標ということですか。

自転車道路の整備について一時ほど熱心ではないと感じます。市内の一部では自転車専用レーンが見られるところがありますが、自転車道路の整備については最近トーンダウンしているように感じます。自転車の市民権を上げていくような施策があってもよいと思います。次回の施策検討の時に出てくるのかもしれませんが、今後に期待します。

中間目標の表を見ると市役所や個人で取り組むことが中心となっています。事業者や民間団体の役割がもっと記載されていてもよいと思います。町内会で行っている取り組みなどを汲み上げたらよいのではないのでしょうか。

会長

事業者の役割は重要です。SDGsの取り組みが事業者の社会的評価につながります。

委員

ローカルSDGsの取り組みとして、昔、我々が食べていたような鶏の卵を10年かけて食材として提供できるようにしました。身近なところで取り組めるものを上げるべきだと思います。

エネルギーに関して、蓄電器を備えていざというとき困らないような手立てをとる等の施策があるとよいと思います。

河川美化について、順番に行っているとのことですが、具体的な計画、今年はどこで活動を行うのかといった分かりやすさが欲しいと感じます。マイクロプラスチック問題で以前酒田を訪問したことがあり、だいぶ酷い状況でした。そのことから最上川の源流においてごみ拾いをするようになりました。

委員

電機業界としても省エネの取り組みをしています。県ではトンネル内の照明のLEDへの切り替えを進めています。

新築物件には太陽光パネルを上げている施設が多いですが、既存の施設に乗せるということはまだまだ進んでいません。国もゼロ・エネルギー・ハウスに力を入れてきていますので個人宅でもどんどん太陽光パネルを取り入れてもらいたいと思います。市としてもバックアップしていただきたい。

委員

P21、22 の温室効果ガスの削減目標の表記が分かりにくい。また、「実質ゼロ」の説明が必要だと思います。P16 の都市計画区域の凡例で、「準住居地域」と「近隣商業地域」の間に「田園住居地域」というカテゴリーがあります。米沢市は「田園住居地域」は0%のため、無くてもよいと思いますが、ゼロカーボンの関係で地域別の考え方も問われる可能性があるため、入れるかどうか検討していただきたいと思います。

P57・58 に記載されている目標の意味合いが分かりにくく、達成した場合の効果が分かりづらい。もう少し全体的に拡充していただきたい。

委員

P6 のゼロカーボンやSDGs は以前から関心がありました。商工会議所女性会では小学生を対象としたポスターコンクールを今年は実施する予定です。今年のテーマは「SDGs」としており、子どもたちから様々なアイデアを吸い上げていきたいと思います。

ところで、市はSDGsの17のゴールを全て取り組んでいくのでしょうか。また、この審議会の協議事項ではありませんが、マイマイガが最近大発生しています。原因と対策をどう考えているか、お聞かせ願いたい。

事務局

SDGsの1～6は基本的なゴール、7～15は産業や経済活動としての目指すゴール、16・17は平和や共存のゴールとして設定されています。全てのゴールを達成することが求められており、市の各施策で目指すべきゴールが違いますが、出来る範囲で全てのゴールを目指していくものだと考えています。

マイマイガについては、10年周期で大発生します。来年も大発生する可能性があります。ただ、大量発生後マイマイガがウイルスに感染し、大発生は収束します。駆除については、各々が出来る範囲でご協力いただきたい。生態などについては、広報やホームページで発信していきます。

委員

ごみ問題は、一市民として大事なことです。家庭ごみの出し方やごみの現状を市民にもっと知ってもらい、市民意識をもっと高めるべきだと思います。

会長

ごみ問題への取り組みについて民間での取り組みももっと喚起していただきたい。

委員

大枠のところでは不安要素があります。二酸化炭素削減量も少し前までは「半減」くらいでも良いレベルでしたが、ゼロカーボンシティ宣言を公表し、今では「実質ゼロ」というレベルにまで上がっています。SDGs 未来都市や地域循環共生圏活動団体への選定という外部環境が大きく変わってしまったので、今までのやり方でよいのかと不安になります。

環境目標についても今後はある程度の結果を出さなくてはならないと思います。企業や組織を動かすには今の計画では足りないと感じます。施策体系について「望ましい環境像」いわゆる「理念」の次に、すぐ「環境目標」が来ていますが、この間にミッションやポリシーや方向性を挟むことが必要だと思います。そうでないと具体的なイメージができず、共感できません。理念と目標の間に、「SDGs 未来都市」や「地域循環共生圏の実現」等のポリシーを挟むのがよいと思います。SDGs や地域循環共生圏は認知度がまだまだ低いと感じます。

会長

まちづくり総合計画や産業関係の計画にマッピングしていく必要があります。体系をつくっていかなくてはなりません。これは避けては通れないと思うので再検討、再構成をお願いしたい。

委員

P12「スマートシティ」とは何か、言葉が分かりづらいので注釈が必要だと思います。時間の関係もあるので、私からはこれで終わりとします。

委員

P24にある「木質バイオマス発電」に関して、自分は、まさにその事業を行っている企業の代表を務めています。木質バイオマス発電の発電量の記載がありませんが、実際は6,250kWhあり、相当貢献していると自負しておりますので、ぜひ具体的な発電量を載せていただきたい。

P22の棒グラフについて、最終年度が平成26年度になっていますが、もっと最新のデータを載せていただきたい。

P61の環境教育に関しては、目標達成度が100%となっているが、表現が雑で、何をどれくらいしたのかが何も書かれていません。具体的な数字を出して、何をどれくらいやったのか記載すべきだと思います。

P59 の地域産材活用の公共施設等については目標値を達成していますが、今の情勢からして目標値をもっと上げるべきだと思います。

ゼロカーボンシティ宣言と P21・22、P57 に書かれている二酸化炭素削減目標値との関連性、また目標値を達成するとどうなるのかがよくわかりません。それぞれが関連づくともっとわかりやすいと思います。できる、できないも含めて事務局の回答をいただきたい。

会長

ゴールが決まっているのに、このスピード感でよいのか、目標値の根拠は何かだと思いますが、事務局でコメントはありますか。

事務局

頂戴したご意見については、検討していきたいと思います。個々のご意見に今ここでお答えすることはできません。ただ、P22 の電力については平成 26 年度以降の電力自由化に伴い小売りのデータとして取りまとめているものがないかと思われます。これに関連した他の指標が無いか確認してみます。

5 その他

事務局から、計画策定に係る今後のスケジュールについて説明があった。

6 閉会